

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座731-677
 発行人 梶山広美
 編集人 山田 真

No.393 目次

- ◆(日臨技主催) 検体採取等に関する
厚生労働省指定講習会について……………(2)
- ◆地域ニューリーダー育成講習会参加報告…(3)
- ◆全国「検査と健康展」
長崎県佐世保市中央会場にて開催される…(4)
- ◆平成26年度スポーツ大会について ……(5)
- ◆平成26年度スキルアップセミナー ……(6)
- ◆地区だより……………(7)
- ◆愛知県太陽がん検診従事者講習会のお知らせ…(8)
- ◆「検査室の管理運営に関するアンケート調査」
にご協力をお願い致します……………(8)
- ◆尾張東地区研修会のご案内……………(9)
- ◆知多地区研修会のご案内……………(9)
- ◆研究会……………(9)
- ◆AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信(第30回)……………(10)

平成26年度 愛臨技精度管理事業部の活動について

愛臨技精度管理事業部長 鈴木 博子

精度管理事業部は学術部門に属し、事業部員としては学術部門担当副会長、精度管理部長、精度管理担当理事、研究班精度管理担当者および事務局員から構成され、医療関連施設への臨床検査精度向上の推進及び支援に関する事業を遂行することを目的としています。

その中でも、精度管理調査は事業の要となるものですが、事業案や予算案の検討は前年度の10月ごろから始まっており、それらを含めると実に1年半をかけて取り組んでいることとなります。具体的な活動としては、4月には日程などの具体的なスケジュール決定、5月から6月には試料準備や手引書の作成、7月から8月はシステム設定や試料発送準備、9月から10月には調査実施、集計、評価、報告書作成、11月から12月は結果検討会、総括集作成、1月から2月は報告会準備、3月には報告会と、事業部員の協力や努力なしでは成り立たない事業です。

今年度は日臨技JAMTQCシステム導入後2年目となり、メーカーにご協力いただいている測定値の回収や、化学や免疫部門で結果の乖離した施設を対象にした二次サーベイにもJAMTQCを利用させていただきました。また、請求書、領収書、参加証書のWeb発行も行い、今後ますます完成度の高いシステムを目指していきたく思っております。

このらぼニュースが皆様のお手元に届く頃には今年度の結果検討会も終わっていることと思いますが、この結果検討会は全国都道府県の技師会で唯一愛知県だけが実施しているサポート事業で、単にデータ解離の是正だけではなく、施設が抱えている問題点を相互に確認し解決策を導き出す過程をサポートする場であると考えています。結果検討会に参加されたご施設からは毎年『参加して本当によかったです』といううれしいコメントを頂く半面、ご施設の事情でなかなか参加できない施設もあり、そのようなご施設には今後どのように対応していくべきなのか十分に議論していくことが必要だと思っています。やむを得ず欠席となったご施設の方は基幹施設担当者や研究班に気軽に相談していただければ幸いです。基幹施設の担当者連絡先は当会HPから検索できますので是非ご利用ください。

さて、今年度は残すところ総括集発行と報告会になります。今年度の報告会は平成27年3月14日(土)に名古屋第一赤十字病院で開催します。昨年度に引き続き講演会も開催する予定です。年度末の忙しい時期ですが愛臨技精度管理調査の集大成である報告会には是非ご参加いただくようお願いいたします。

(日臨技主催) 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会について

本年度より、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会が開催されます。平成27年3月までに東海地方におきまして下記2回を予定します。平成27年4月以降の予定については、決定次第ご案内します。

1月17日(土)・18日(日) 名古屋市立大学病院
中央診療棟3階大ホール
2月14日(土)・15日(日) 名古屋大学医学部
基礎研究棟4階講堂

詳細は、日臨技ホームページで確認をお願いします。申し込みも同ホームページからになります。

また、愛臨技ホームページ「事務局からのお知らせ」や会報らぼニュースでもお知らせします。

以下に、検体採取等に関する厚生労働省指定講習会実施要領などからの抜粋を掲示します。

【目的】

地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（平成26年法律第83号）により、臨床検査技師等に関する法律（昭和33年法律第76号）の一部が改正され、平成27年4月1日から、臨床検査技師の業務範囲に一定の検体採取が追加されることとなります。

また、今後、臨床検査技師等に関する法律施行規則（昭和33年厚生省令第24号）の一部を改正し、平成27年4月1日から、臨床検査技師の業務である生理学的検査に嗅覚検査及び味覚検査を追加される予定です。

このような業務範囲の拡大に伴い、平成27年4月1日の時点で既に臨床検査技師免許を取得している者等については、「厚生労働大臣が指定する研修」を受講することが義務付けられます。

この「厚生労働大臣が指定する研修」として、今後、厚生労働省告示において、当会が実施する研修を指定する旨、平成26年10月31日付け厚生労働省医政局医事課長事務連絡が発出されました。

このことから、日臨技としては4年間で全ての受講予定者について受講できる体制整備を行うものである。

【受講資格者等】

地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律附則第32条第1項において、臨床検査技師の免許を受けたものが検体採取を行おうとするときは、あらかじめ、厚生労働大臣が指定する研修を受けなければならないと規定されており、初年2万人、2年目1万人、3年目1万人、4年目1万人の受講者を目標に、最終的には5万人の受講者を指すものとする。

【受講料】

会員は10,000円（非会員で受講申込時会員登録される方を含む）、非会員30,000円とする。

【受講終了証の交付】

指定講習会の全日程を履修した者には、厚生労働省医政局長と日臨技会長の連名で「修了証書」を交付する。

【モデルカリキュラム】

第1日目

1. 受付
2. オリエンテーション
3. 開講挨拶
(一社)日本臨床衛生検査技師会 会長 宮島喜文
4. 臨床検査技師法に関する法的知識及びその責任範囲、医療倫理
5. 微生物学的検査等※2（皮膚表在組織病変部等※3）における検体採取（皮膚生検は除く）に必要な知識・技能・態度
※2（ウイルス、細菌、真菌、スピロヘータ、寄生虫検査等）
※3（膿、丘疹、水泡、膿泡、びらん、鱗屑、粘膜、毛髪、爪等）
6. 微生物学的検査等（糞便検査）における検体採取※4に必要な知識・技能態度
※4（糞便が採取できない場合にスワブを用い肛門部から便の直接採取）

第2日目

7. 味覚検査※5、嗅覚検査※6に必要な知識・技能・態度
 - ※5（電気味覚検査、ろ紙ディスク法による味覚定量検査）
 - ※6（基準嗅覚検査（T&Tオルファクトメーターによる検査）、静脈性嗅覚検査（静脈へのアリナミン注射薬の注射行為は除く）
8. 微生物学的検査等（インフルエンザ等）におけ

- る検体採取※1に必要な知識・技能・態度
 - ※1（鼻腔拭い液、鼻咽頭拭い液、咽頭拭い液、鼻腔吸引液等の採取）
9. 検体採取及び味覚・嗅覚検査のシミュレーション（ビデオ放映及び舌圧子及び綿棒を使用して実技を行う）
10. 確認試験（講習会終了後、習得度の確認を行う。自己採点とする）
11. 閉校式

地域ニューリーダー育成講習会参加報告

副会長 藤田 孝

10月25日から27日に東京都の晴海グランドホテルで開催された日臨技地域ニューリーダー育成講習会に参加して参りました。これは日臨技が組織活性化および組織強化学業の一環として今年度初めて開催する講習会で、各県から代表者1名ずつが参加することとなり、愛知県は私が出席して参りました。残念ながら47都道府県すべての参加は叶わなかったようですが、43都道府県からの出席がありました。第1日目はオリエンテーションの後、宮島会長から「社会情勢と次世代のリーダーに求めるもの」、下田常務理事から「臨床検査技師法と新たな業務拡大について」、横地専務理事から「日臨技の組織について」、松本副会長および上原執行理事から「日臨技の重点課題と方針について」の4講義があり、日臨技の組織および事業についての説明と第4次マスタープランについて詳細に講義を受講しました。約2時間の夕食・懇親会を挟み、再度セミナールームに集合がかり、宮島会長から再び今後の日臨技について熱いお話を伺うことができました。第2日目には人材開発コンサルタントの塩川正人氏を講師にお招きし、リーダーシップについての講義およびStep表を活用した目標達成プロセスについてグループ討議を行いました。Step表は、簡単に言うと、目標達成までの過程を幾つかの段階（Step）を設定し、手順で間違ふことのないよう段階（Step）を踏んで実践するために、その段階（Step）を表として書き出

し（見える化）、また、関係者に意見を求めることで自分の行っていること、達成過程段階を理解してもらおうというものです。朝9時から講習会が始まり、終了は夜9時と、とてもハードなカリキュラムに受講生全員ヘトヘトになっておりました。第3日目には、Step表を今後の日臨技および各都道府県技師会で如何に活用して行くかについて討議しました。受講生それぞれが今回の講習会で皆が得た知識、手法を今後どのように活用して行くことが出来るか、各都道府県技師会がそれぞれ抱えている課題や問題に対し如何にStep表を活用し解決して行くかについて熱心に議論されました。

本講習会は時間的にも内容的にも、たいへん濃くハードなものでしたが、各県の方々との交流ができ、とても有意義であったと考えます。最終的にはサイボウズというネット上の情報共有ツールに今回の講習会メンバーでグループが作られ、現在も意見交換が行われています。





全国「検査と健康展」 長崎県佐世保市中央会場にて開催される



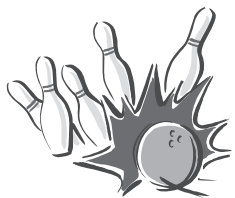
日臨技担当理事 中井 規隆

平成26年11月8日午前10時から佐世保市文化体育館にて全国「検査と健康展」が開催されました。早朝から長崎県技師会のスタッフおよそ150名は各ブースにてそれぞれの準備に入り、前日に用意した配布資料や機器の作動チェック、諸注意を申し送ったあと来場者を迎えました。イベント中には東京女子医科大学の佐藤麻子教授に健康講演「糖尿病と臨床検査」を、特別講演として国境なき医師団等で活躍され佐世保文学賞を受賞された菅原洋治医師に「定年外科医 海外医療ボランティアへ行く」の講演をいただきました。検査コーナーでは頸動脈超音波検査、血管年齢検査、骨密度検査、血糖検査、貧血検査、血液型検査、尿検査、ミクロの世界観察コーナー、超音波体験コーナー、感染と手洗いチェックコーナーを設けました。天候は曇りのち雨とあいにくの天候でしたが開場1時間前から整理券を求め大勢の方が並ばれ、健康への関心の強さを感じました。開会式で宮島日臨技会長は臨床検査技師がチーム医療のスタッフとして日々医療に貢献し、今後検査説明相談や検体採取など新しい取り組みを始めていることなど、臨床検査技師を多くの方に知っていただ

く機会にしていきたいと述べられました。その後多くの来場者がそれぞれの検査を体験し、臨床検査を身近に感じていただく良い機会になったのではないかと思います。小中学生を対象とした超音波検査体験コーナーではフルーツゼリーや水槽に泳がせた金魚を超音波で観察するなど工夫を凝らした企画が目につきました。頸動脈超音波検査では7台の機器を、血管年齢検査は5台の機器を配備し、待ち時間が無いように整理券の配布も工夫されていました。健康相談コーナーでは共催の日本臨床検査専門医会佐守友博会長と佐藤教授、長崎大学病院の医師2名により、来場者の体験した検査結果の説明と健康相談を行ないました。来場いただいた方々からは、臨床検査技師という仕事を是非自分のお子さんやお孫さんにさせたいなどのお声も聞かれました。来場者数は500名弱との発表でしたが、午前午後と複数回にわたり来場された方が多く、実際はもっと多くの方がお見えになった印象でした。午後4時を終了予定としていましたが、来場者が全員お帰りになるまで片付けをしない心配りが医療人としての優しさに繋がっていると感じたイベントでした。



<p>全国「検査と健康展」 臨床検査健康フェア</p> <p>H26年11月8日(土)10:00～16:00 10:00～開会式 10:30～イベントスタート 16:00受付締切</p> <p>佐世保市文化体育館 長崎県佐世保市光町6-17</p> <p>イベント その1: いざい健康展</p> <p>検査無料体験 (定数になり次第終了となります) ①～③はそれぞれ整理券を配布します ① 頸動脈超音波検査 ② 血糖検査 ③ 骨密度検査 ④ 貧血検査 ⑤ 血液検査 ⑥ 尿検査</p> <p>臨床検査専門医による無料健康相談</p> <p>主催 日本臨床検査専門医会 日本臨床検査技師会 共催 日本臨床検査専門医会 日本臨床検査技師会 全日本病院協会 全日本臨床検査技師会 後援 日本臨床検査専門医会 日本臨床検査技師会 日本臨床検査専門医会 日本臨床検査技師会 日本臨床検査専門医会 日本臨床検査技師会 日本臨床検査専門医会 日本臨床検査技師会 佐世保市 佐世保市医師会 長崎県医師会 佐世保市医師会</p> <p>お問い合わせ先: 090-9404-4127 開催: 丸瀬 (佐世保市医師会)</p>	<p>全国「検査と健康展」 臨床検査健康フェア</p> <p>イベント その2: 臨床検査の世界をのぞいてみよう</p> <p>小学生・中学生</p> <ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡を使ってミクロの世界を観察 超音波を使って体の中を観察 血液型の検査を体験 <p>(注意) 来場者の健康状態は確認しません ・感染予防と手洗いチェック</p> <p>イベント その3: 健康講演会 11:30～12:30</p> <p>佐藤麻子医師 (東京女子医科大学病院 教授) 「糖尿病と臨床検査」</p> <p>講演者は、血液の中のブドウ糖(血糖)が常に高い状態になる糖尿病です。多くの場合、糖尿病は自覚症状が少なく、早期発見することが難しく、適切な治療を受けることが必要です。そのため、定期的な検査を受けることが非常に重要になります。講演会に基づいた健康チェックをおこなってください。</p> <p>イベント その4: 特別講演会 14:00～15:00</p> <p>菅原洋治医師(佐世保文学賞受賞) 「定年 外科医 海外医療ボランティアへ行く」</p> <p>「カンファ」はメキシコ、エチオピアなど海外へ派遣された医師の経験、フィリピン、インドネシアへ派遣された医師の経験、フィリピン、インドネシアへ派遣された医師の経験、フィリピン、インドネシアへ派遣された医師の経験について話していただきます。</p>
---	--



平成26年度スポーツ大会について



組織部

去る10月25日(土)に愛臨技スポーツ大会が会員・賛助会員の相互交流と親睦を図りながら連携を深めることをスローガンに掲げ、124名が集まり開催されました。

愛臨技理事からは、会長、部長、監査が参加し、始球式では岸監査、アークレイマーケティング(株)桑原さんのお二人同時にストライクを出すなど大いに盛り上がりました。

ご参加頂きました方々にはあらためて感謝申し上げる次第です。

参加人数 参加者数 124名(会員 85名、賛助会員39名)

ボーリング大会に参加して

名古屋記念病院 三宅 里奈

10月25日(土)に愛臨技ボーリング大会に初めて参加させて頂きました。

ボーリングをするのはすごく久しぶりでワクワクしながら職場の先輩と会場に向かうと、なんと病院内の人ではなく違う病院の方や年齢の異なる方とチームが組まれており、なかなか自分から話しかけられない私は、「何を話したらいいかなあ?」「うまく投げられなかったらどうしよう」という不安と緊張でいっぱいになりました。

しかし、ゲームが始まってからは同じレーンの方や周囲の先生方が声をかけて下さり、とても楽しむ



ことができました。一緒にゲームを楽しみつつ普段ではなかなか聞けない他の職場の方の話の聞くことができ、とても貴重な経験ができたと感じました。

このような素敵な企画をしてくださったことに感謝し、また来年度も参加させていただきたいと思いました。

優勝者一言

団体

日頃は愛臨技の皆様方にはたいへんお世話になっています。この度は第37回愛臨技スポーツ大会におきまして、『賛助会員Iチーム』とし優勝させて頂き誠にありがとうございました。秋晴れのもと、スポーツで汗を流し心も体も爽快で、リフレッシュできました。今後とも愛臨技のご発展をお祈りするとともに、日頃よりお世話になっております先生方へのお礼の言葉と替えさせていただきます。

賛助会員Iチーム アークレイマーケティング(株) 桑原 伸二

男性

55歳で細胞検査士合格、56歳でボーリング大会優勝。

オジサンはこれからもがんばります。

女性

安城更生病院の新人の永井です。同じチームの方々と、とても楽しくプレーすることができました。ありがとうございました。



♪ 平成26年度 スキルアップセミナー ♪

テーマ：『診療に欠かせない良好な検査結果を得るために必要な検査説明』

～特に生理機能検査と体液検体検査について～

愛知県臨床検査標準化協議会（AiCCLS）作成のガイドライン、リーフレットを基に講演を企画しました。実践的なディスカッションタイムを設けます。多くの施設の参加をお待ちしています。

日 時：平成27年1月25日（日） 受付開始9：00（開講式 9：30～終了予定 16：30）

会 場：名古屋大学医学部 基礎医学研究棟4階 第4講義室

申 込 み：事前申し込みは不要です。

参加費：2,000円

生涯教育：基礎教科 20点（臨床検査の基礎）

昼 食：各自ご用意下さい。

問い合わせ：名古屋市立大学大学院 滝野 寿 Tel.052-853-8161

プログラム

9：00－9：30	受 付			
9：30－10：00	開講式	総合進行	名古屋市立大	滝野 寿
10：00－12：00	生理検査における検査説明	進行	豊橋市民病院	手嶋 充善
	講演1 『心電図』		厚生連江南厚生病院	柴田 康孝
	講演2 『超音波』		厚生連渥美病院	小笠原律子
	講演3 『脳神経』		西尾市民病院	鈴木 更織
	講演4 『呼吸機能』		愛知医科大学病院	井上真由利
12：00－13：00	昼 食			
13：00－14：30	体液における検査説明	進行	名古屋記念病院	藤原 宗孝
	講演5 『一般』		青山病院	平田 基裕
	講演6 『微生物』		豊田厚生病院	内藤 淳
	講演7 『病理・細胞診』		名古屋大学	佐藤 浩司
14：30－14：40	休 憩			
14：40－16：10	ディスカッションタイム	進行	名鉄病院	赤座久美子
			安城更正病院	磯村 美佐・小牧市民病院
			名古屋大学	有馬 武史・名古屋第一赤病院
			藤田保健衛生大学	長谷川勝俊・江南厚生病院
			増子記念病院	平田 弘美
				藤田 京子
				郡司 昌治
				住吉 尚之
16：10－16：30	講評・閉校式			

アクセス：JR中央線 鶴舞駅 徒歩3分 地下鉄 鶴舞線 鶴舞駅 徒歩8分

*11月号でご案内した託児ルームですが、用意できませんでした。ご了承ください。



後ろに写っている船が神島の「誠陽丸」。参加メンバーは都合によりそのつど違います。



釣ればなんでもうれしいです。

現在、職場の釣りクラブで部長をしながら釣りを楽しんでいます。活動は年3回、検査科をはじめ放射線科、看護局、医事課等、院内の釣り好きを集めて「魚の釣れる釣りクラブ」をモットーに大会を開催しています。大会は遊漁船を仕立て、伊良湖沖の神島付近での船釣りです。対象は春ならメバル、夏は鳥羽沖まで出かけて行ってイサキ・アジ、秋はマダイ・ワラサ・カワハギ等を狙います。クーラーボックスさえ持っていけば釣竿や仕掛けは貸してもらえ、お手軽に釣りを楽しむこともできます。

長いこと釣りをしていると面白い出来事も時々あって、仕掛けを入れたと同時に全部サバが食ってしまい、最初から最後までサバしか釣れない時があったり、またある時は釣り上げた魚を狙って船の周りをサメやシイラがうろうろと泳いでいたこともありましたが、こんな時はひたすら今は何も釣れないでくれと願うだけです。餌のおこぼれを狙って集まってきた海鳥が、投入した仕掛けの餌を潜って食べてしまい、何匹か鳥を釣り上げたこともありましたが、

ビギナーズラックというのは本当にあって、初め

での釣りで第1投目から70cmのヒラメを釣ってしまう人や、タイ釣りをしていてTVの釣り番組でしか見たことのないような80cmを超えるブリを釣ってしまう素人の方もいます。そんなのは部長の私だってまだ釣ったことがありません。釣り上げた魚は鮮度が落ちないように活締めにして持ち帰ります。これ以上ない新鮮な状態で魚を食べることができるのは釣り人の特権です。麻酔科のDr.などは釣りあげた魚一匹一匹に針麻酔をしているのはさすがです。

残念なのは、神島付近は外洋のため波の荒い日が多く、中には船に酔って釣りにならないメンバーも出てくることです。この方たちや釣れなかったときなど本当に申し訳ない気持ちになってしまいます。最近では釣りを始める女性アングラも多数会員にいます。釣りをしたことのない方もぜひ一度楽しんでみてください。「今日は来てよかった！」と言える日になるかもしれませんよ。

お知らせ

生涯教育点数が関係する行事に参加される方は、必ず会員証をお持ち下さい。会員証をお忘れになった方は、自己申請して頂くことになります。申請用紙は愛臨技HPの各種手続きにあります。

2014年11月10日現在 正会員数 2,858名

※求人情報、理事会・常務理事会議事録はホームページを御覧いただくか、事務所へお問合せください。

愛知県大腸がん検診従事者講習会のお知らせ

日時：平成27年2月27日(金) 13:30～15:40
場所：愛知県がんセンター

国際交流センター大会議室

講演 1：免疫学的便ヘモグロビン検査の標準化と
精度管理について

講師：J A愛知厚生連 江南厚生病院
伊藤 康生

講演 2：大腸がん検診の現在と未来
～大腸がん死亡を減らす為に～

講師：(公財)福井県健康管理協会副理事長
県民健康センター所長 松田 一夫

内容：松田先生には、①日本では大腸がん死亡が増えているが、先進諸国では着実に減っている。②大腸がん死亡を減らすには、精度の高い大腸がん検診が有用。③現行の日本の大腸がん検診には問題が山積み。についてお話ししていただきます。伊藤技師にはAicclsの活動や精度管理調査に基づいた免疫学的便ヘモグロビン検査の概要についてお話ししていただきます。皆様の多数のご参加をお待ちしています。

参加費：無料

申込方法：愛知県大腸がん検診従事者講習会参加希望と記入し、
①施設名
②施設の郵便番号と住所
③電話番号
④氏名を記入しFAXにてお申し込みください。

申込締切：平成27年2月19日(木)

連絡先：(公財)愛知県健康づくり振興事業団
総合健診センター
診療検査部 荒谷、高橋
TEL：052-882-2961
FAX：052-882-2963

広報部からのお知らせ

上記の平成26年度愛知県大腸がん検診従事者講習会実施要領、カリキュラム、講習会申込書、講習会案内は愛臨技ホームページ「事務局からのお知らせ」に掲載してあります。ご参照ください。

「検査室の管理運営に関するアンケート調査」 にご協力をお願い致します

組織部

愛臨技組織部では毎年、各施設の代表者に検査室の管理運営に関するアンケート調査を行なっていますが、今年度も下記の要領で実施いたします。

設問は病院情報、検査室情報、労働状況、技師職状況等を設定しております。

集計結果は会誌らほ第66巻No1に掲載予定です。

記

発送：らほニュース12月号と同時発送

締切日：平成27年1月16日(金)

返送方法：同封の返信用封筒をご利用ください。

返送先：〒450-0002

名古屋市中村区名駅5丁目16番17号
花車ビル南館

(公)愛知県臨床検査技師会 事務所

問合せ先：(公)愛知県臨床検査技師会 組織部長
岩尾 文彦

〒460-0001 名古屋市中区三の丸4-1-1
名古屋医療センター統括診療部
臨床検査科

TEL (052) 951-1111 (6669)

FAX (052) 951-0664

E-mail kensaboss@nnh.hosp.go.jp

以上

尾張東地区研修会のご案内

専門教科：20点
日時：平成27年1月31日(土) 15:00～16:30
場所：愛知県がんセンター中央病院 視聴覚室
テーマ：血小板はどのように産生されるか
講師：国立病院機構名古屋医療センター
臨床研究センター高度診断研究部分子
診断研究室 國島 伸治
司会：愛知県がんセンター中央病院
臨床検査部 板倉 英二
内容：血小板は骨髄巨核球から産生されることはよく知られていますが、産生様式はよく判っていませんでした。試験管内での巨核球培養が可能になったことや、生体内での細胞組織を生きのまま可視化する技術によって、骨髄内で血小板が作られる瞬間を観察できる様になりました。今回の研修会では、最近の血小板研究の「見えてきた(ような)話」をしていただきます。



研究会

生理検査研究班

専門教科：20点
日時：平成27年1月17日(土) 15:00～17:00
場所：名古屋市立大学医学研究科
医学部研究棟11階講義室A
テーマ：腹部エコーに必要な知識を得よう！
－病理組織とCT、MRI画像－
講師：1. 病理組織はこう見える！
豊田厚生病院 迫 欣二
2. CT、MRI画像はこう見える！
刈谷豊田総合病院
放射線技術科 今田 秀尚

知多地区研修会のご案内

専門教科：20点
日時：平成27年2月26日(木) 19:00～20:00
場所：(一社)半田市医師会健康管理センター
PET棟4階会議室
テーマ：移植医療の現状について
講師：藤田保健衛生大学病院
移植医療支援室副室長
愛知県臓器移植コーディネーター
西山 幸枝
愛知腎臓財団
愛知県臓器移植コーディネーター
鳥羽美沙子
司会：知多市民病院 新美 宗彦
内容：2010年に臓器移植法が改正され、新聞報道などの影響もあり臓器提供について社会的な関心が高まりました。その後4年が経過し、臓器提供のCMや運転免許証や保険証の裏面での臓器提供の意思表示欄が設置されるなど臓器提供について身近に感じられる環境も増えています。実際に現場を支えるコーディネーターの方から移植医療の現状について解説いただく貴重な機会を設けました。多数のご参加をお待ちしています。

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信 (第30回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発刊された刊行物、「CBCの誤差要因と対策」についてご紹介いたします。

血液検査は自動血球分析装置を使用する際には、誤差要因の発生機序を理解し適切な対応をしなければならないです。そのため、これらの対策につきとても見やすくまとめられていますので、是非ご活用ください。今回は血球計数の基礎から“(1) 電気抵抗法(インピーダンス法)”を抜粋しました。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

II. 血球計数の基礎

1. 測定の原理²³⁾

1) 血球計数と容積

(1) 電気抵抗法(インピーダンス法)

希釈液(伝導性液体)に満たされたアパチャー(細孔)の前後に電極を配して一定電流を流すと、希釈液と血球との間に電気的抵抗の変化が生じる(図11)。一箇の血球がアパチャーを通過した時の抵抗値が血球の容積に比例し、通過時のパルス電圧の発生頻度が血球数に相当する。

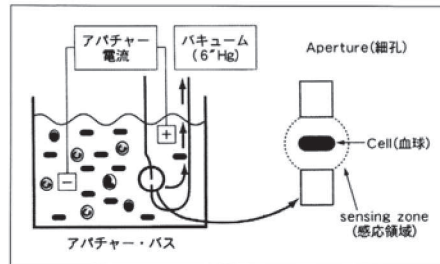


図11 コールター方式「文献7から引用」

測定機器には血球の同時通過や乱流による舞い戻りを防止するため、スイーフロー方式(図12)やシースフロー方式(図13)などを搭載している機種がある²³⁾。

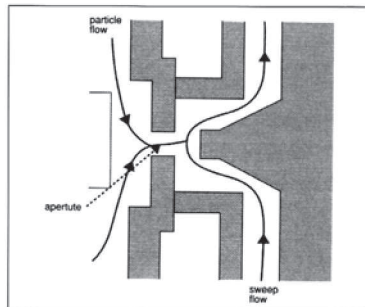


図12 スイーフロー方式「文献23から引用」

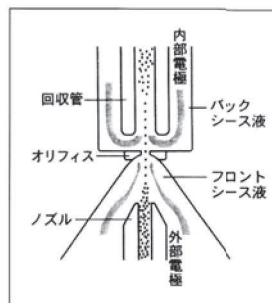


図13 シースフロー方式「文献23から引用」